

秋季闘争方針を確認

10/26 才1回支部
代表者会議 開かる

日刊 動労千葉

81.10.27

No879

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)公衆(電話)二七二〇七

本部は、十月二十六日十三時より、第一回支部代表者会議を開催し、秋季年末闘争の取り組み等について、全体の意志統一をかちとつた。

I、仲裁々定・人事院勧告完全実施と 国鉄35万人体制攻撃粉碎を闘いとう

(1) 「行革国会」は行革、公務員二法と仲裁・人勤をセットにした自民党の攻撃の前に、「行革特別委員会」の設置を認めた社会党の屈服的姿勢の中で、自民党ペースで進んでいる。

政府・自民党は仲裁「完全実施」を宣伝して公務員と公労協の分断をはかる一方、「赤字」を理由に国鉄・林野に付帯決議をつけ、それに全電通が迎合することによって公労協内部の分断をも策動している。

こうした敵の分断策動を許さず、完全実施を要求して闘わねばならない。

(2) 国鉄三十五万人体制攻撃は、全国的に検修民託、施設民託化の攻撃としてかけられており、千葉局の場合十三駅の民託と小名木川入換作業及びフロント業務の民託化を提案する動向にある。

更に木原線廃止にむけた「地方協議会」の設置がなされようとしており、合理化反対、地方協議会設置反対を闘わねばならない。

△秋季闘争の目標▽

「反行革、仲裁々定完全実施、三十五万人体制粉碎、木原線廃止反対、右翼労戦統一粉碎、軍事大国化阻止」

(具体的取り組み)

① 10・29年金・福祉・仲裁スト

● 仲裁完全実施の場合
全支部で昼休みに勤務時間に二九分間くいとむ職場集会を開催する。

● 仲裁に付帯決議がついた場合(国鉄・林野)
(実施時期・年末手当問題など)
鹿島地区拠点、半日スト(始発から十二時)

● 全支部昼休み時間内二九分間くいとむ職場集会

② 11・2木原線廃止反対スト及び十一月中旬の三十五万人体制反対ストは、国労共闘のもとに取り組む。細部については執行委員会に一任。

II、右翼的労戦「統一」に反対し、 軍事大国化攻撃を阻止しよう

(1) 自民党鈴木内閣からの帝国主義的労働運動再編攻撃II総評解体攻撃に屈服し、混乱を深める楨枝・富塚指導部は、10・20国際反戦デー総評集会の破産的な状況にみられるように、総評崩壊の危機を象徴している。一〇・一九太田・市川・岩井

総評三顧問呼びかけによる集会など、労戦「統一」に反対する動向は部分的にはありつつも、明確に対決する視点が無いがゆえに暗中模索の状況であり、十一月四日総評臨時大会をひかえ、労働運動総体が激しく揺さぶられている。とりわけ動労「本部」反動分子は、「全統統一」を主張し、10・20総評集会で富塚擁護の側に立って、暴力的に立ちふるまうなど、右翼的労戦「統一」の凶暴な尖兵となっている。

(2) 一方、10・11三里塚闘争は一万二千名という本年最大の結集(動労千葉三〇〇名)をかちとり二期着工阻止を宣言した。そして10・20、21国際反戦闘争の大高揚は、軍事大国化にむけた反動攻勢に反撃する秋季闘争の突破口を切り開いたといえる。

今や全世界でわき上る反戦闘争と結合し、「三里塚を闘う労働運動」を拡大させ、国鉄労働運動の戦闘的再生を勝ちとるといふわが動労千葉の路線のみが唯一、今日の右翼労戦「統一」攻撃を粉碎し、闘う真の労働戦線統一をかちとる道である事は、ますます鮮明となっている。

具体的には、

① 総評主催十二月八日反核二〇万人集会に総力決起をかちとろう。

② 動労千葉主催「三里塚二期着工阻止、軍事大国化・改憲阻止、右翼的労働戦線「統一」粉碎、全国労働者総決起集会」を全国によびかけかちとろう。

III、全組合員の創意を結集して、「動 労千葉支援基金」一人一口獲得運動 を推し進めよう

一人一口獲得運動は、単に財政確立の闘いとどまらなくて、動労千葉の81・3闘争の地平を堅持し、路線的正義性を全戦線に拡大し、「三里塚・反合を闘う労働運動」の潮流形成にむけ、組合員一人ひとりの課題として実践しなければならぬ。

具体的には、

① 各支部は十月中旬に「一人一口獲得行動委員会」を設置し、十一月を「一人一口獲得月間」に設定し、まず役員・活動家から実践するとともに、
② 秋季闘争の取り組みと組織体制確立にむけ早急に職場集会を開催し、各支部の特徴を生かすきり、全組合員の創意工夫をもって実現していく。

第一回支部代は以上の事を確認して終了した。団結固く秋季闘争の高揚をかちとっていく。